

地域と考える防災・減災教育

伊勢市における地域と学校の取り組み

○ 河田 慎人 (人と防災未来センター)
竹之内 健介 (京都大学防災研究所)
矢守 克也 (京都大学防災研究所)

[キーワード] 防災・減災教育, 主体的な学び, 地域気象情報, アクティブラーニング

1. 研究背景・先行研究

住民による気象情報の理解や活用に関する研究は多数ある。竹之内ら (2013) は、社会における「気象情報」と、その利用者である「住民」の関係に着目し、「地域気象情報」を提案している。「地域気象情報」とは、現在の専門性の高い膨大な気象情報を地域性（ローカリティー）の高い、身近な表現を利用した情報に変換したものであり、情報をより人々が生活を営む地域と結びつけたものとして、状況把握と危機意識の事前醸成を助け、早期の対応行動へと結びつけることを目指すものである。(竹之内・島田・河田・中西・矢守, 2013)

防災・減災を「我がこと」として捉えるために、その取り組みの「日常化」が有効であるという考えもある。そもそも、「地域性を高める」というときの「地域」は、単なる「地名」や「地点」ではなく、「人々が生活を営む（身近な）地域」を指すと考えられる。矢守 (2011) は、「生活防災」の重要性を論じている。「生活防災」とは、生活総体（まるごとの生活）に根ざした防災・減災実践のことであり、生活文化として定着した防災・減災と言っても良い。すなわち、「生活防災」の考え方は、防災・減災を日常生活の他の領域とは無関係の独立した活動とはとらえず、むしろ、日常生活を構成する様々な諸活動とともに、防災・減災に関する活動を生活全体の中に融け込ませることを重視する。

つまり、他の生活領域と引き離さない防災・減災が目標とされるわけである。「生活防災」は、「日常の生活」において、「みんな」で「繰り返し」、「地域特性に合わせて」実施される取り組みが望ましいとされる。

2. 研究手法・研究地域

伊勢市立伊勢宮川中学校校区は、全国的にも降水量が多い紀伊半島南東部大台ヶ原を源流とする宮川

の下流に位置し、学校の西側を宮川が北向きに流れている地域である。中学校校区内では、平成 16 年台風 21 号・平成 23 年台風 12 号、平成 29 年台風 21 号の影響により、浸水害が発生した。

この伊勢宮川中学校校区において、①中学校における授業の展開、②中島学区まちづくり協議会と連携した中島小学校における防災・減災授業・イベントの実施、③伊勢宮川中学校避難所マニュアル作成委員会の取り組み の 3 つの実践を展開している。

研究の枠組みとしては、アクション・リサーチを用いる。アクション・リサーチは教育研究においても膨大な研究成果があり（稻垣・佐藤, 1996）、また、防災研究・防災学習研究においても用いられる研究手法である。

3. 実践内容

3.1 中学校における授業の展開

授業は毎年 1 年生を対象に行われる。全 5 回程度の授業を通じて、自分たちの地域と関連の深い「気象情報」や「防災情報」を「我がこと」として捉え、自分の身を守り、また、将来、誰かの命を守れるようになることを目標としている。]



図 1 橋脚で説明を受ける中学生たち

平成30年度は、中島学区まちづくり協議会の住民とともに、地域散策にも出た。(図1)学校の周辺や、学区の情報を皆で確認しながら、自らの目で見て、また現地で説明を受けることで、教室内での学習に止まらないフィールドにおける学習を展開した。

また、授業の中で1度、津気象台と連携した授業を実施している。情報の発信者である気象台の中の話を聞くことで、その情報の背後にある考え方や、受けてどのような行動を取って欲しいかなどを知り、情報を受けて、自分自身がどのような行動をするのかをより深く考える機会となることが期待される。

3.2 中島学区まちづくり協議会と連携した中島小学校における防災・減災授業・イベントの実施

平成27年度より、伊勢宮川中学校区内にある中島小学校にて、サタデースクールを利用し、中島小学校まちづくり協議会安心安全委員会が主体となった、小学校と連携した防災・減災授業及びイベントを実施している。平成30年度は6月16日(土)の1時間目に、5年生を除く5学年において、それぞれの学年で地域住民による授業を、5年生は気象台による授業を実施し、その後、5・6年生と保護者、地域住民による防災イベントを実施した。(図2)

平成29年度は「洪水避難シート」の作成を通じた風水害に備えるイベントを実施し、平成30年度は「わが家の地震対策成績表」を通じた地震に備えるイベントを実施し、毎年200名程度の参加者がみんなと一緒に自分と地域の防災について考える機会となっている。



図2 イベントに参加する生徒や保護者

3.3 伊勢宮川中学校避難所マニュアル作成委員会の取り組み

伊勢市立伊勢宮川中学校は伊勢市の指定避難所である。地域住民と伊勢市危機管理課、社会福祉協議会、校長(教頭)など多様な立場の委員により、現在マニュアル作成が行われている。マニュアル完成後は、地域住民とともに避難所についてのワークショップや、中学生とともに避難所運営の試行を実施予定している。

4. 今後の課題・展望

伊勢市立伊勢宮川中学校は伊勢市の指定避難所である。地域住民と伊勢市危機管理課、社会福祉協議会、校長(教頭)など多様な立場の委員により、現在マニュアル作成が行われている。マニュアル完成後は、地域住民とともに避難所についてのワークショップや、中学生とともに避難所運営の試行を実施予定している。

本稿には記述しなかったが、防災・減災についての学びと主体的な学びについて、活動理論や三層で理解する主体的な学習といった枠組みに当てはめることで、整理・分析を実施する。

引用文献

- 稻垣忠彦・佐藤学(1996)『授業研究入門』岩波書店
竹之内健介・島田真吾・河田慈人・中西千尋・矢守克也(2013)「地域気象情報の共有による減災の取組～伊勢市辻久留地区におけるアンケート調査を通じて～」『災害情報』Vol.11, 101-113
矢守克也(2011)『“生活防災”のすすめ—東日本大震災と日本社会』ナカニシヤ出版